

# プロセスポートフォリオマネジメント —個のプロセス改善から群のプロセス改善へ—

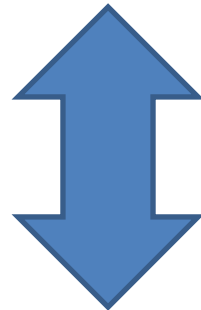
2008

宮下 洋一

東京コンピュータサービス株式会社

# 背景

経営的レベルでの効果

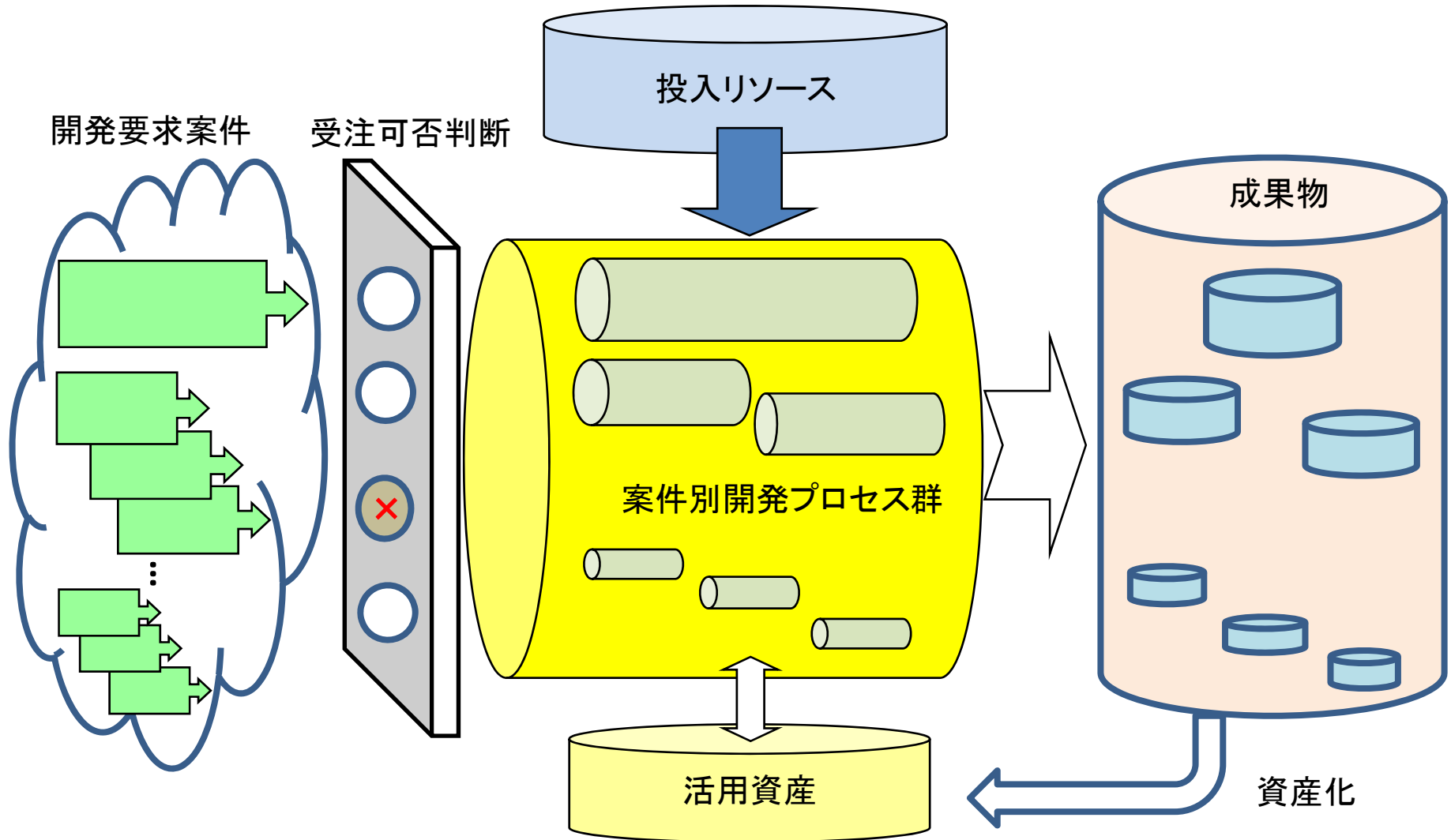


ギャップ

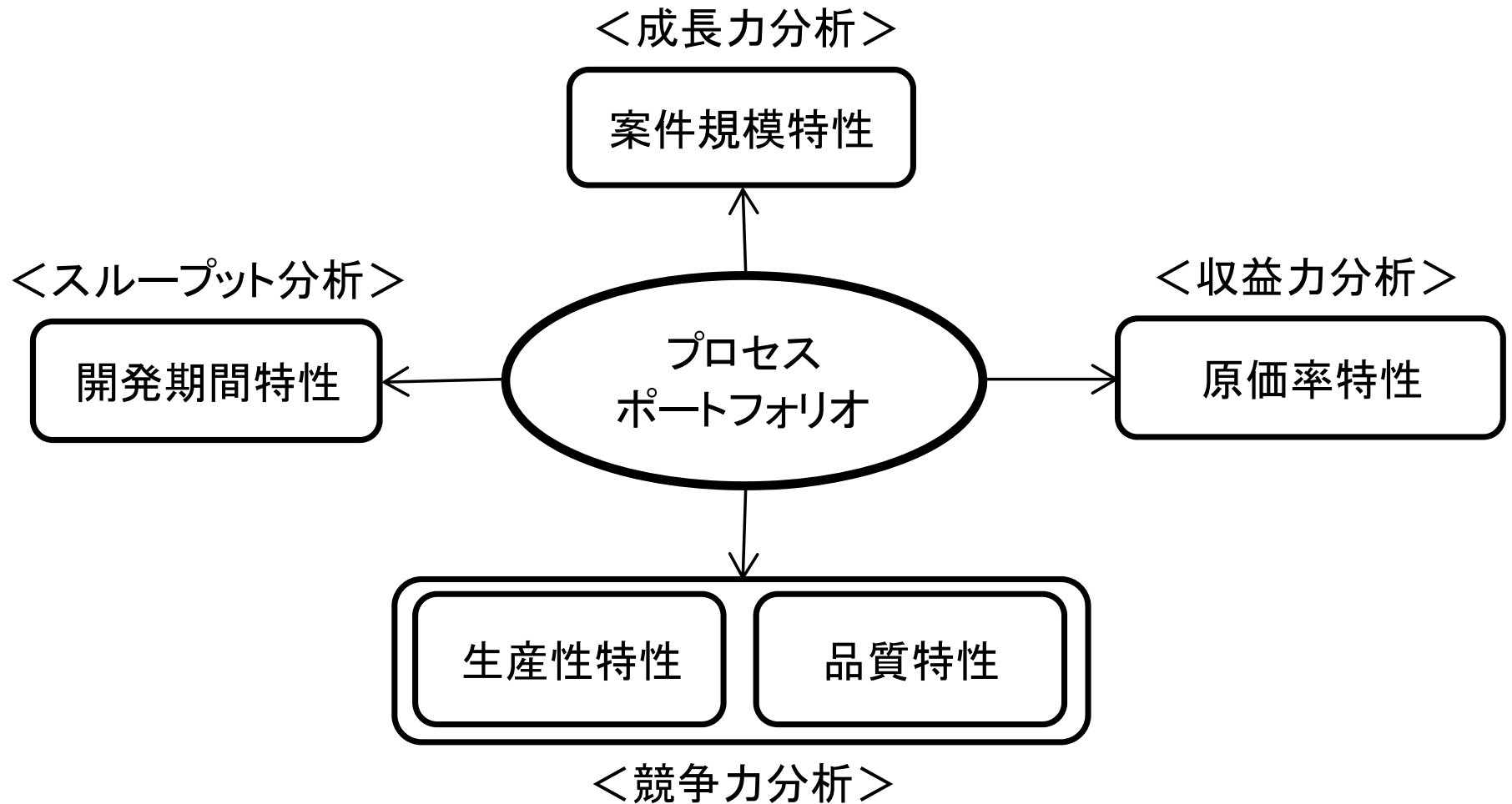
個別のプロセス改善活動の集積

改善の焦点を、個別プロセスモデルからプロセス群（プロセス事業モデル）へ

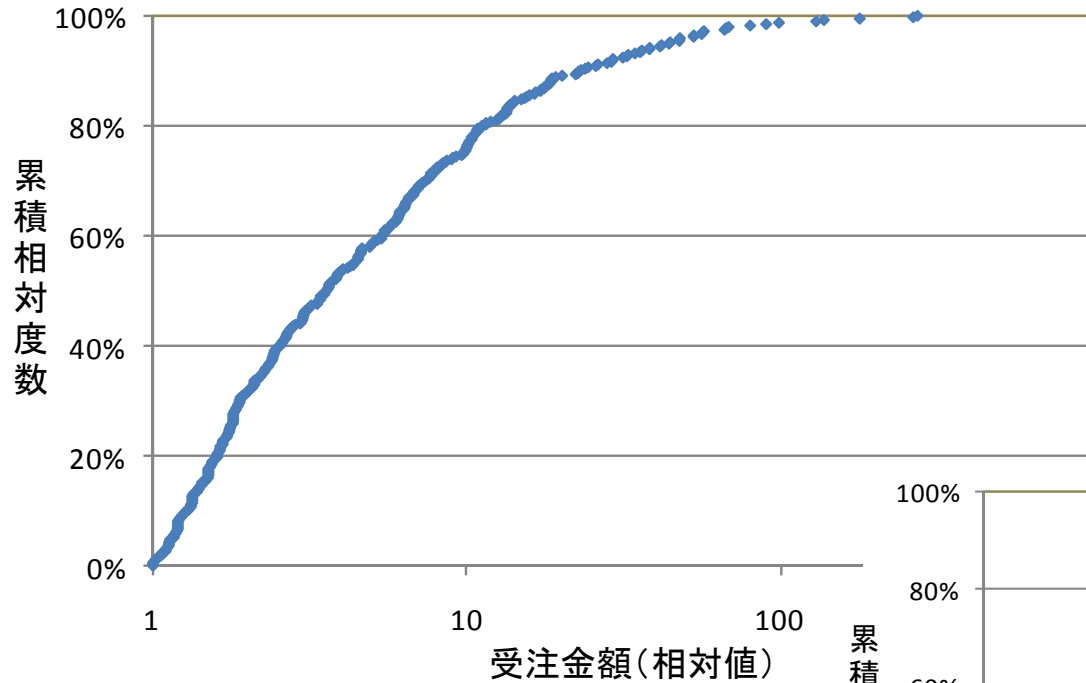
# プロセス事業モデル



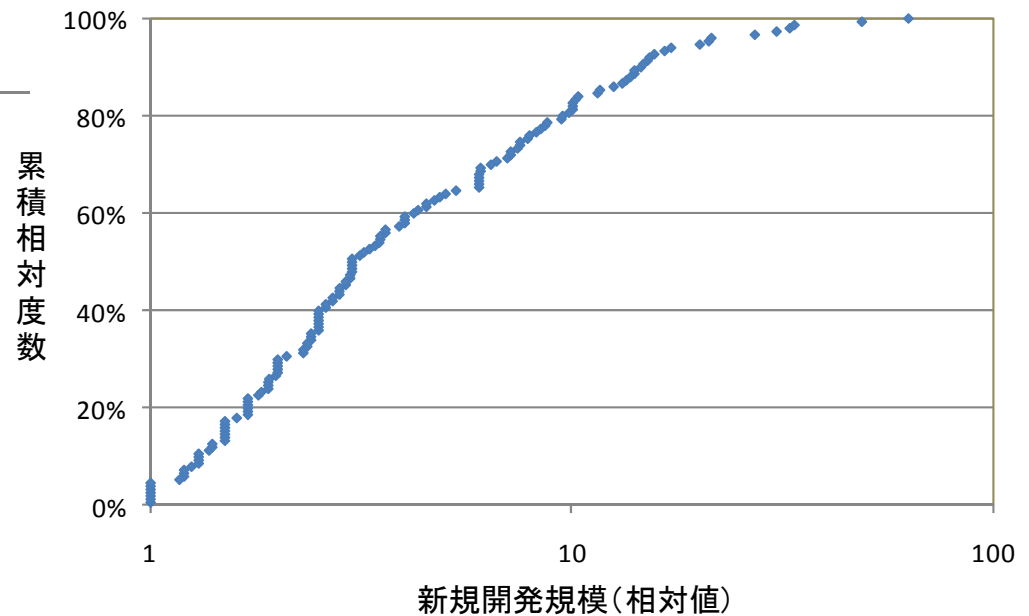
# プロセス事業モデル分析の視座



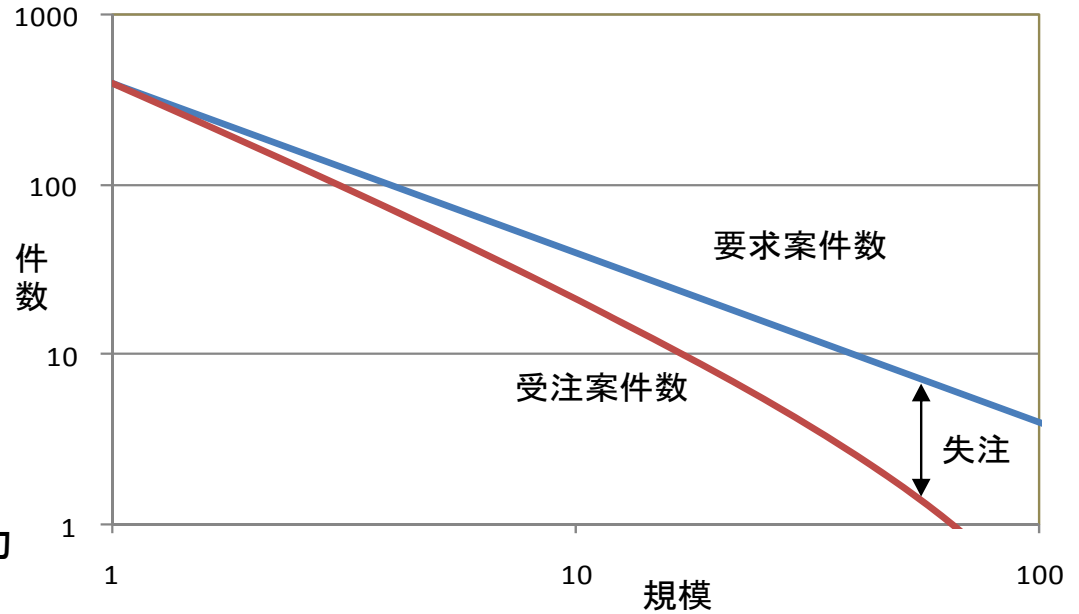
# 案件規模データ



この分布から  
何が読み取れるか？

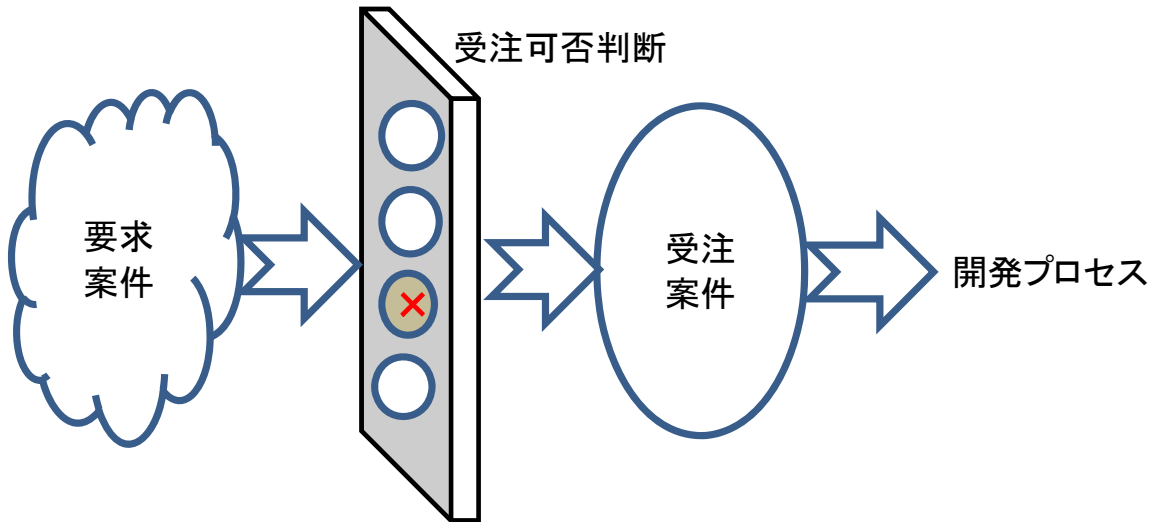


# 成長力分析：案件規模特性ポートフォリオ



市場開拓力  
(営業力)

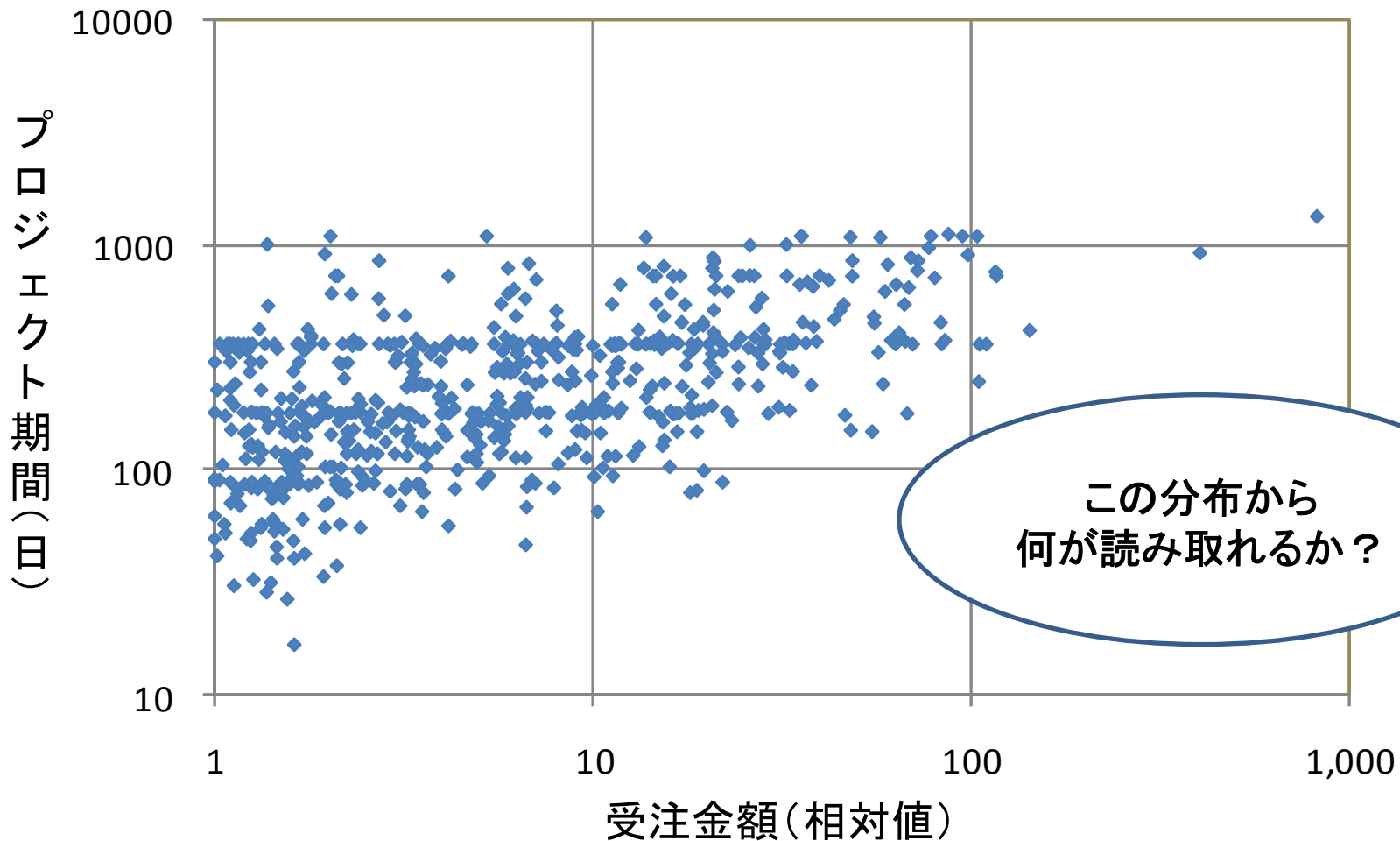
市場適応力  
(開発力)



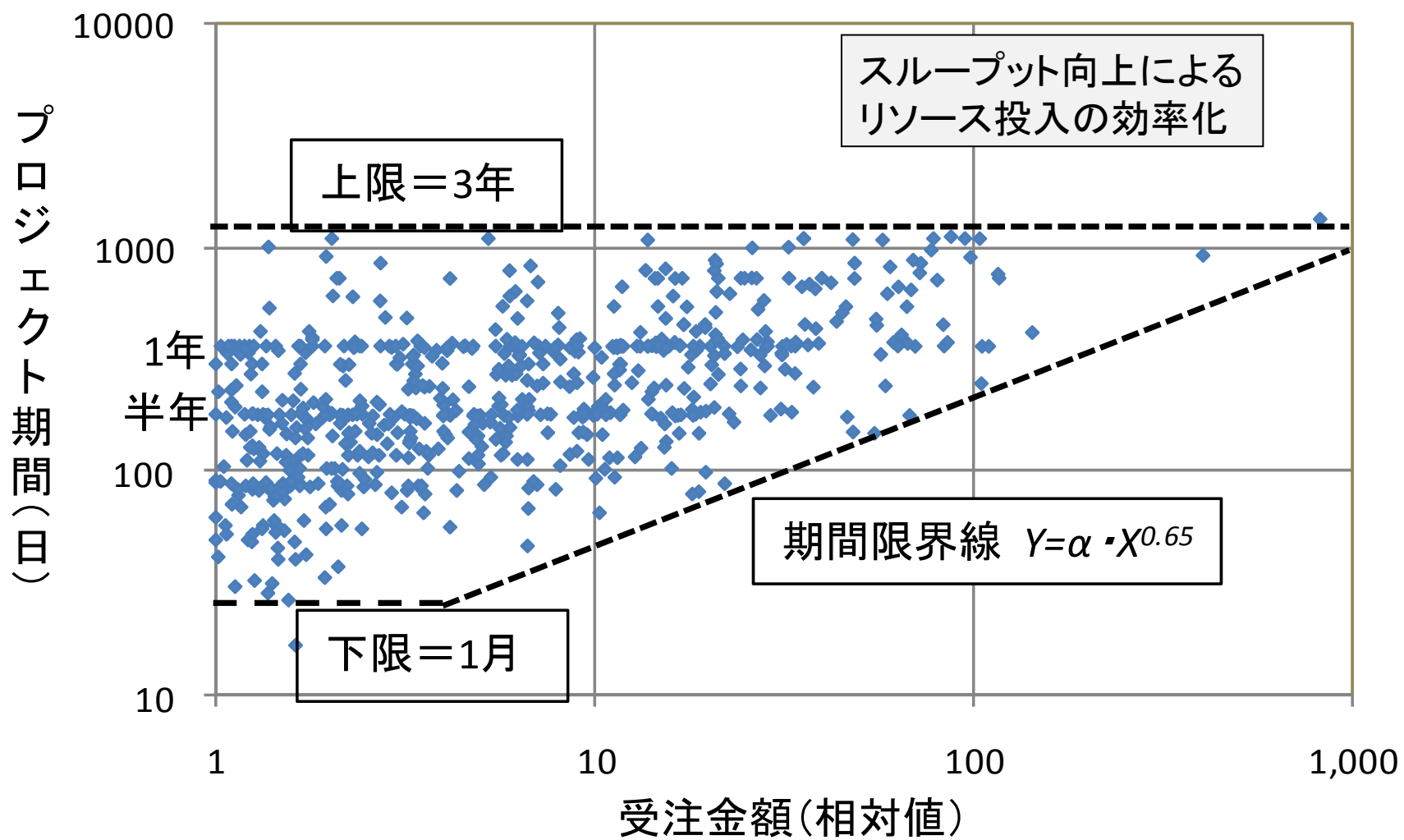
規模分布  $\propto 1/X$

受注確率  $\propto (1 - \beta \cdot \text{Log}(X))$

# 開発期間の分布データ

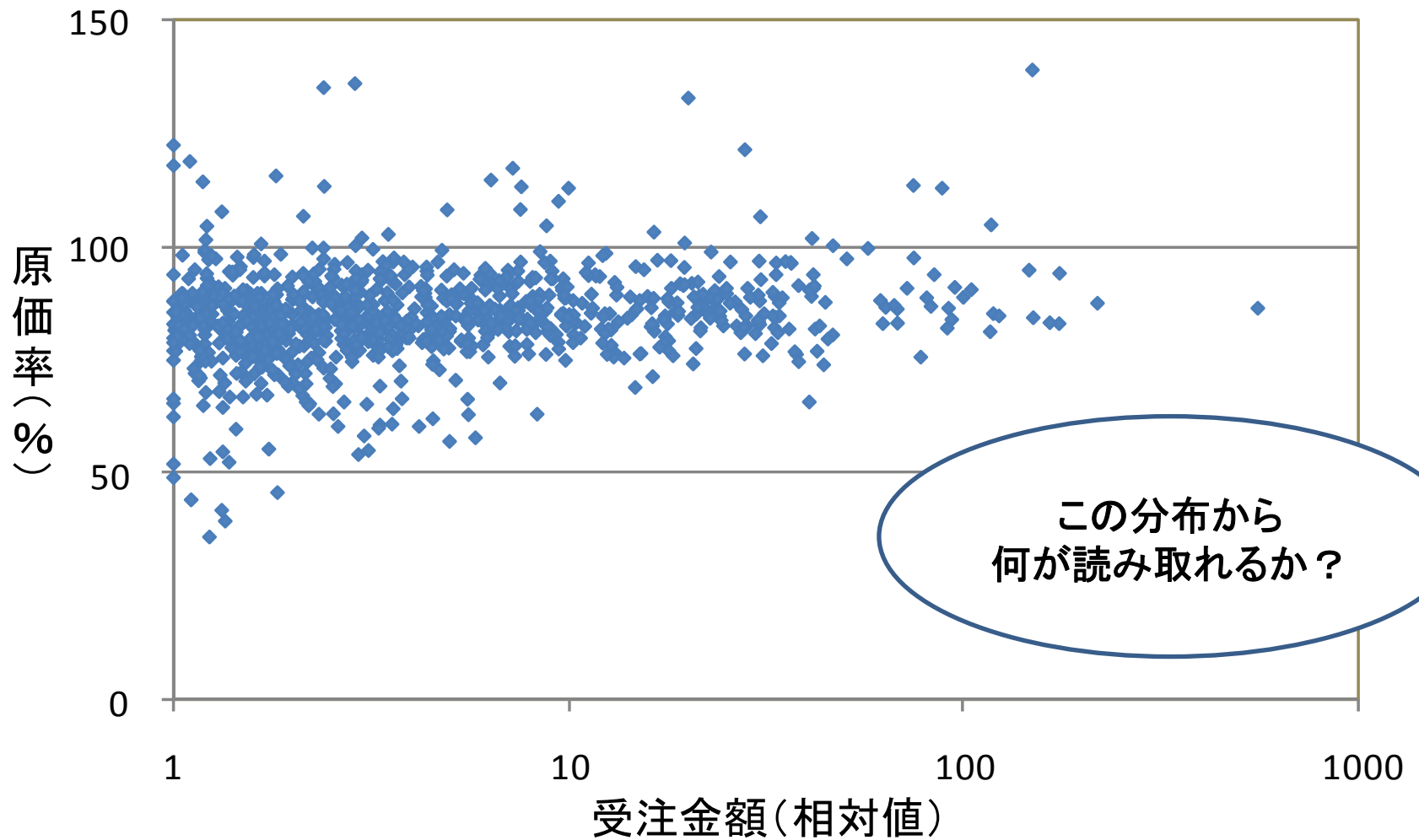


# スループット分析：開発期間特性ポートフォリオ

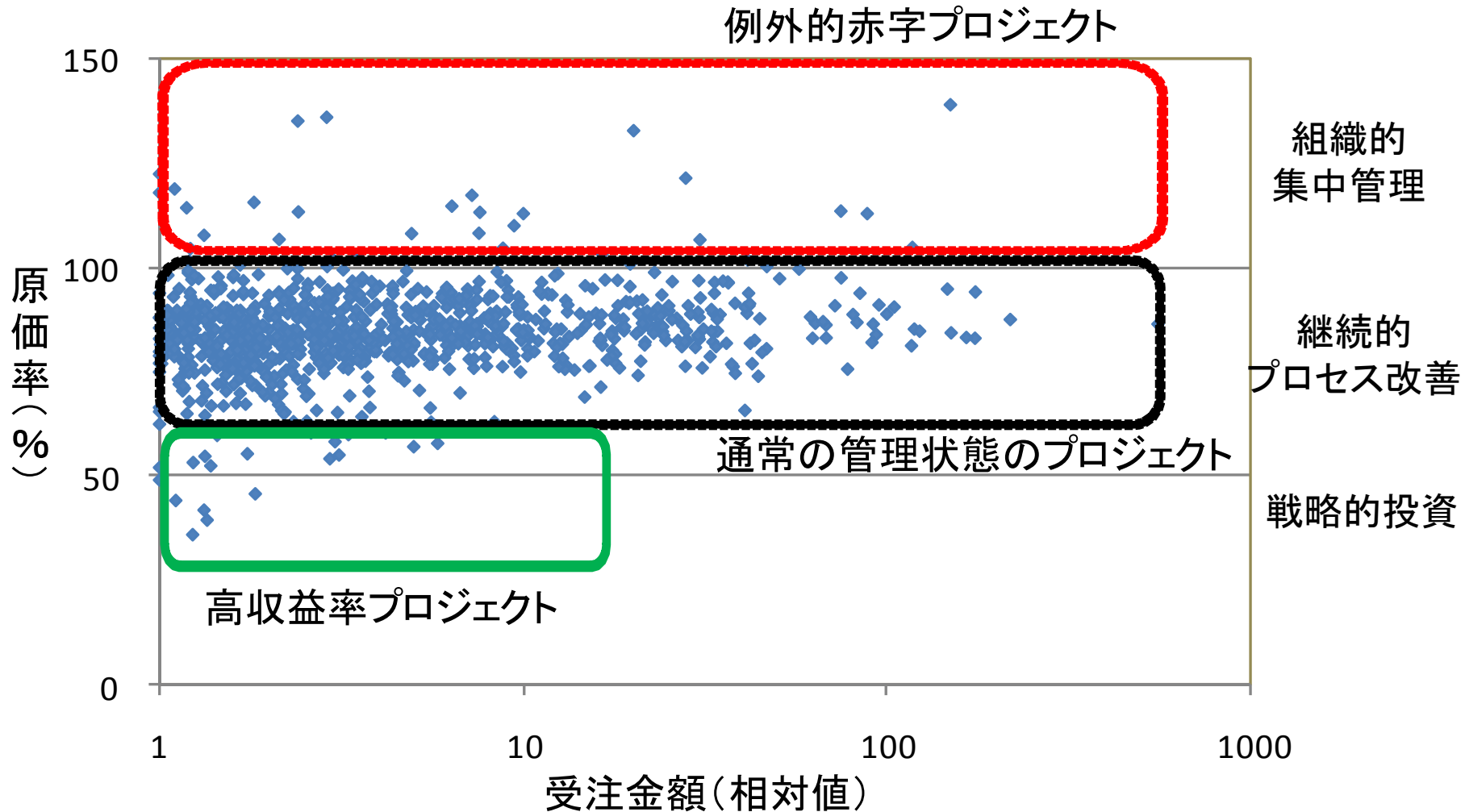




# 原価率の分布データ

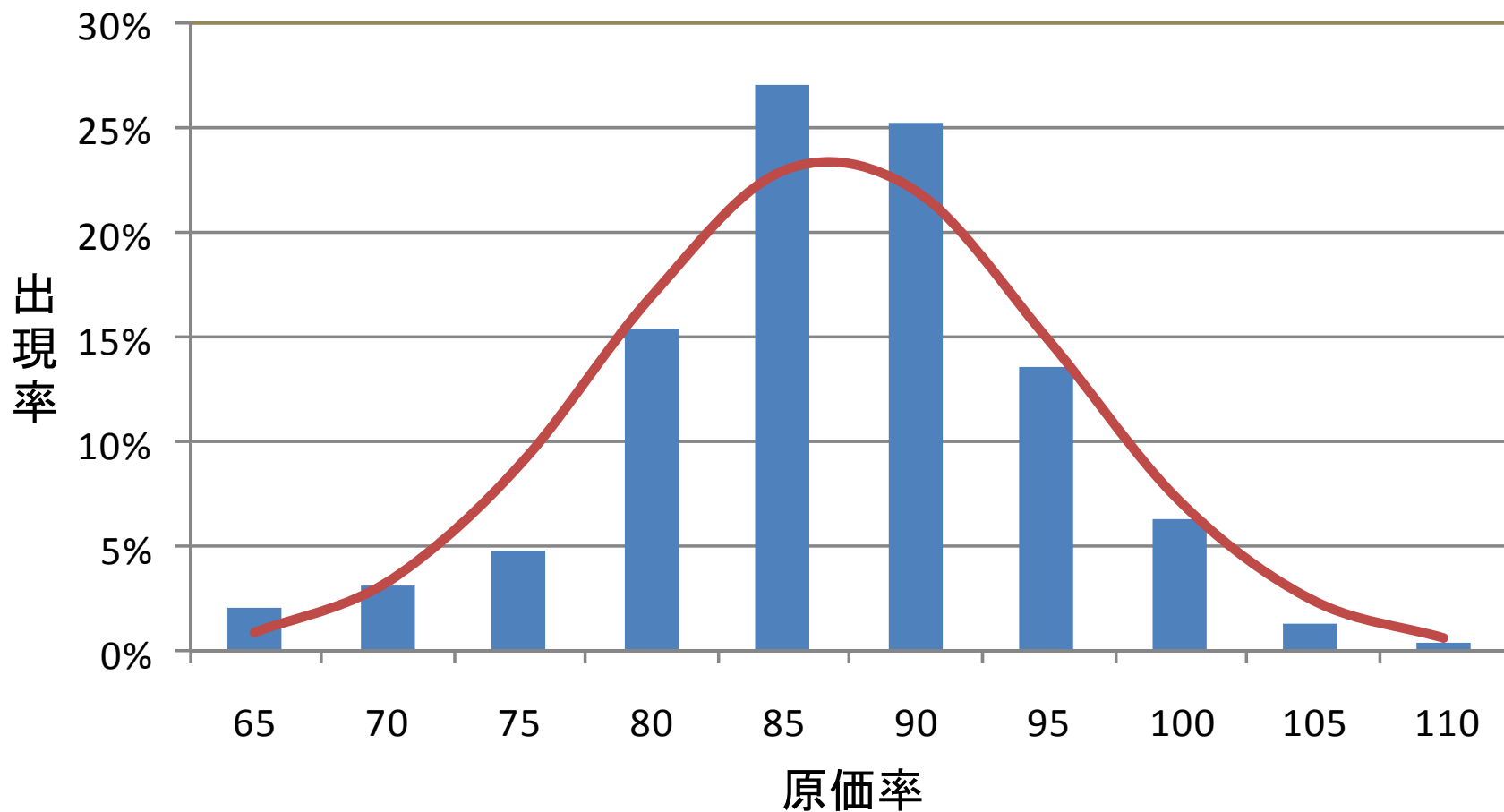


# 収益力分析：原価率特性ポートフォリオ

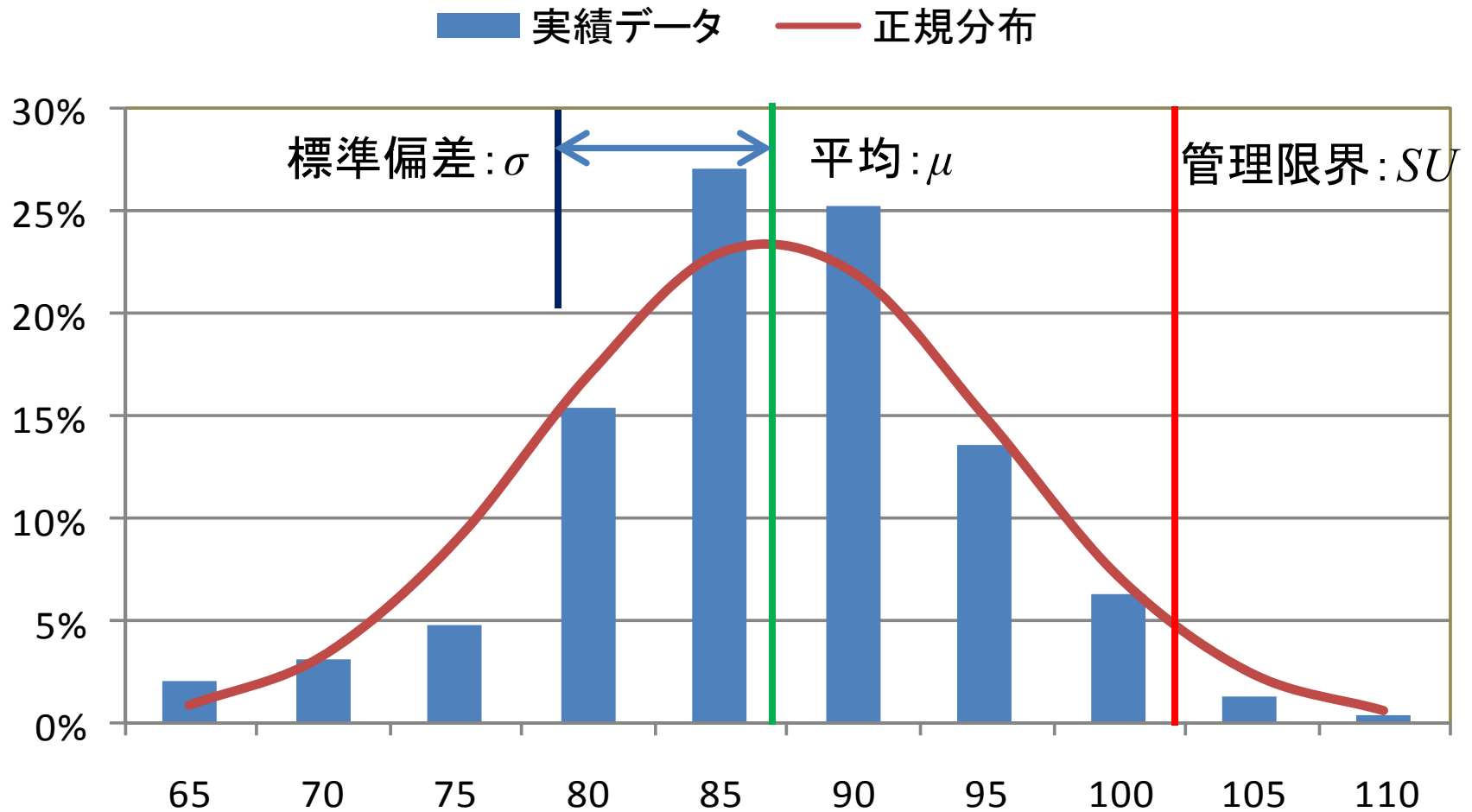


# 通常の管理状態の原価率分布

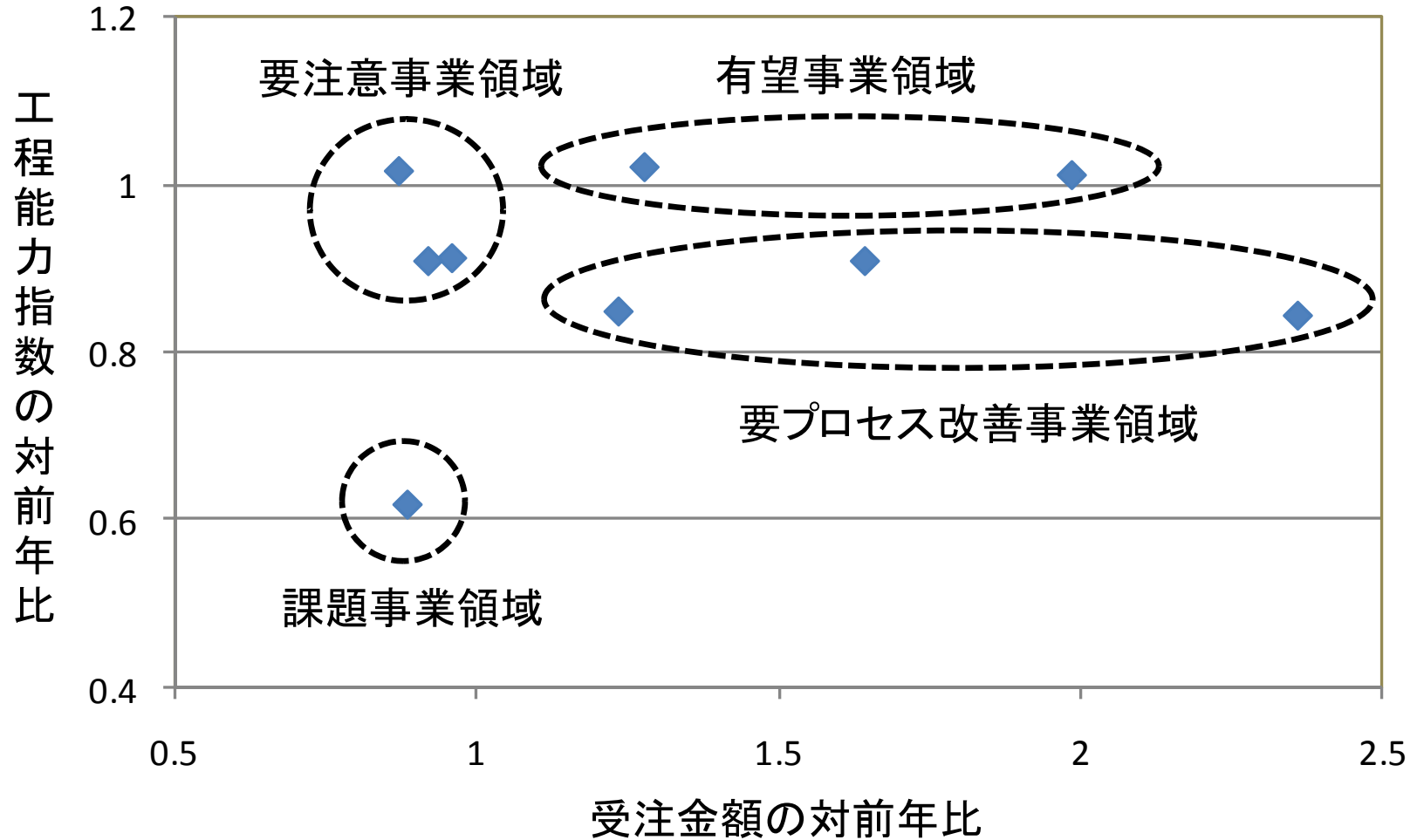
■ 実績データ    — 正規分布



# 原価率管理の工程能力指数

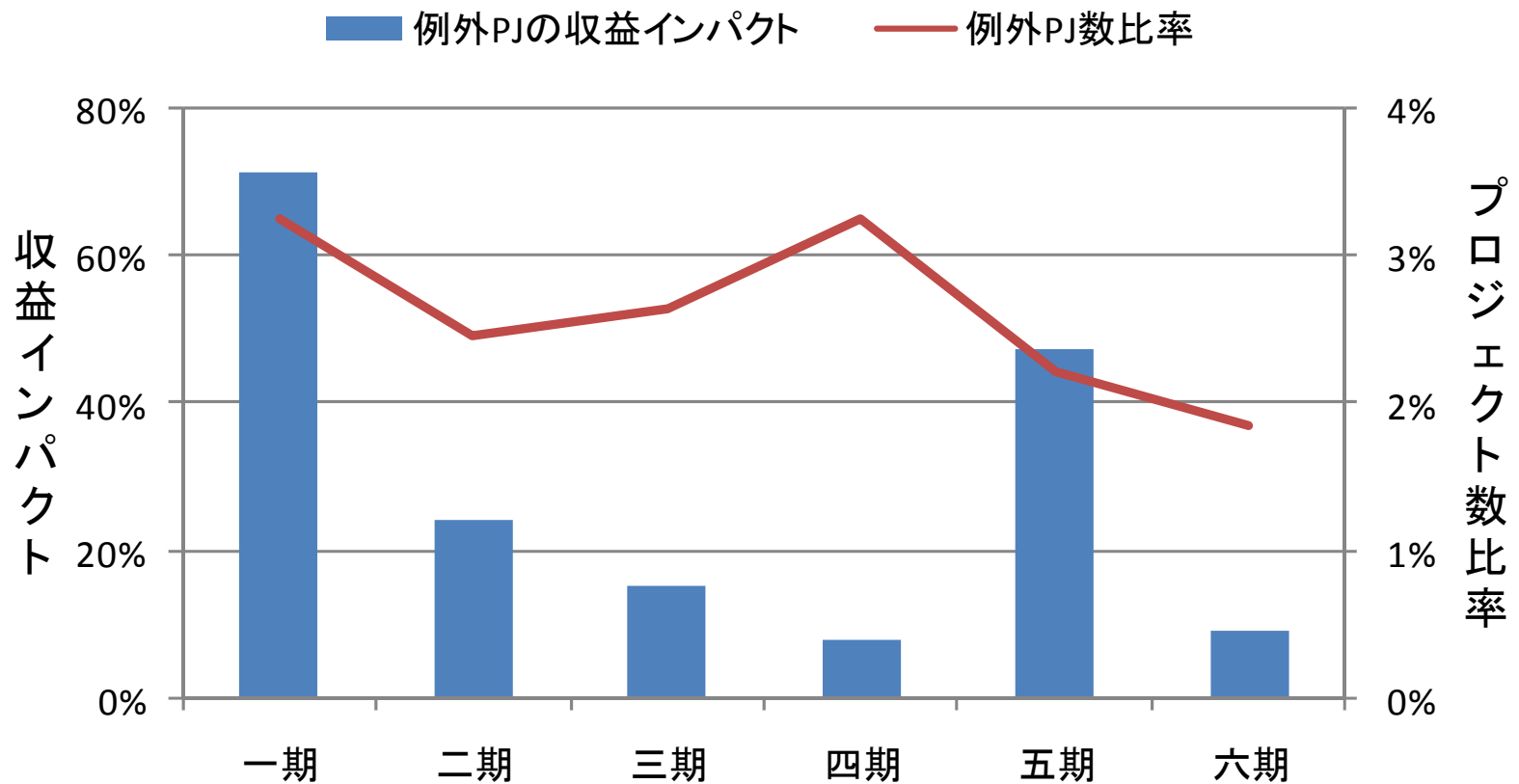


# 事業領域別原価率ポートフォリオ



# 例外的赤字PJの収益インパクト

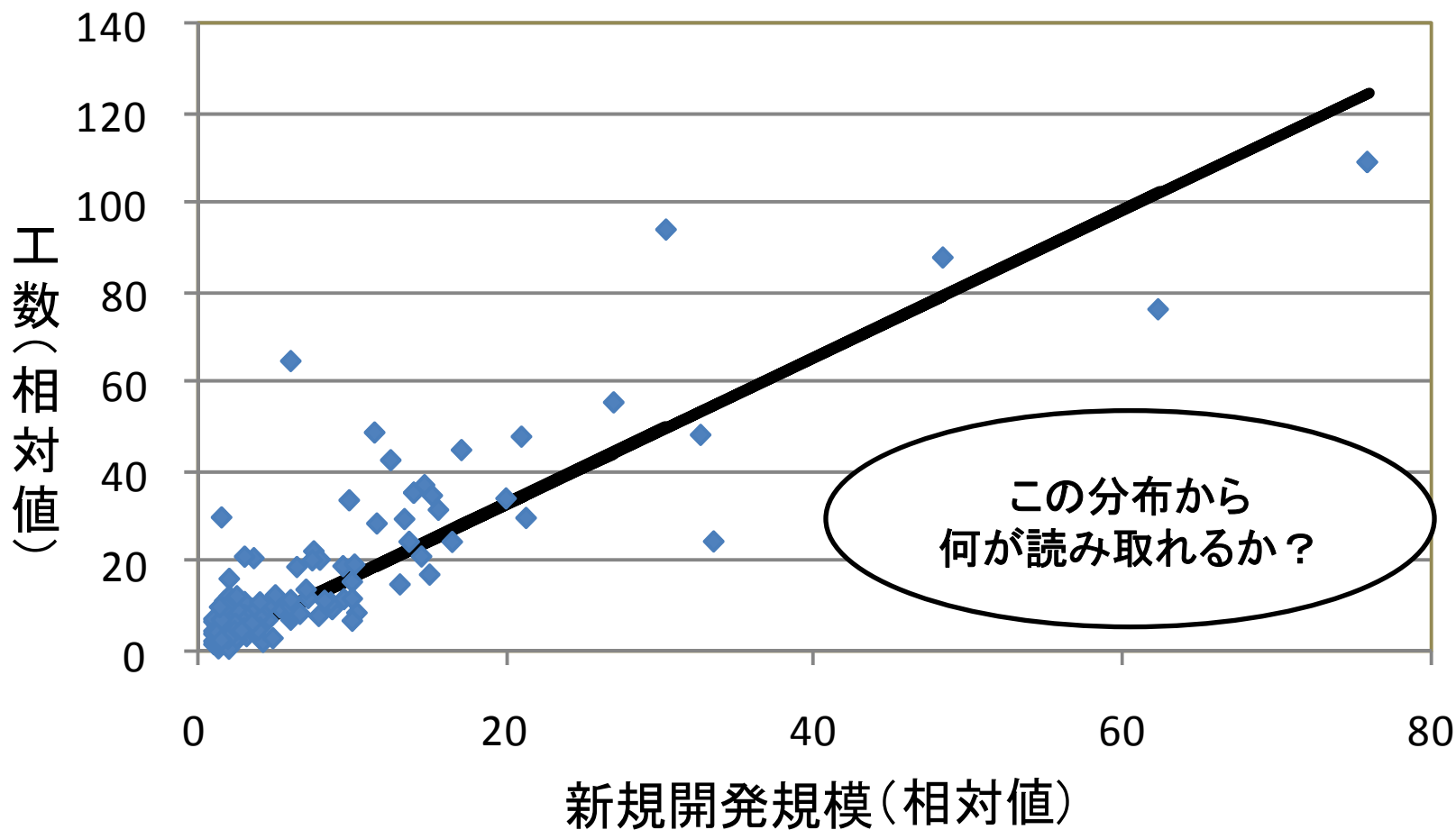
$$\text{例外PJの収益インパクト} = \frac{\text{例外PJの損失額}}{\text{例外PJ以外の収益額}}$$



# 生産性分布データ

定量的生産性分析による中長期的開発能力の強化

◆ 実績データ — 回帰直線



# 競争力分析：生産性特性ポートフォリオ

## 規模分布モデル

$$Y = \alpha \cdot X_1 + N(\mu, \sigma^2) \cdot \text{Log}(X_2)$$

Y: 工数

$X_1$ : 新規開発規模

$X_2$ : 全体規模

$N(\mu, \sigma^2)$ : 平均  $\mu$  分散  $\sigma^2$  の正規分布

開発プロセスの安定性指標 =  $\alpha / \sigma$

部門	A	B	C
安定性指標	1	0.9	0.7

A: 伝統的なミドルウェア製品開発部門

B: 戦略的な新製品開発部門

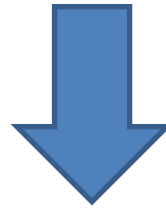
C: 単発的な多様な製品開発部門

表中の安定性指標の値は部門Aに対する相対値



# プロセスポートフォリオの適用

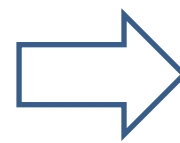
部門全体の課題の抽出と改善効果の検証



PJ単位／個人単位での適用も可能

PJ遂行を阻む要因

- ・突発的割り込み業務の発生
- ・複数業務の兼務者によるボトルネック
- ・進捗のばらつきによる全体進行の障害
- ・・・・



個別作業の効率化以上に、  
PJチームメンバーが関わる  
業務全体の効率化が重要

<チームプロセスポートフォリオ>

個人ベースでも同様

<パーソナルプロセスポートフォリオ>

# おわりに

個のプロセス改善から、  
群のプロセス（プロセス事業モデル）の改革へ

